

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス事業所 キッズハウスピッピ		2024年9月30日				
		チェック項目		公表日		
		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	活動スペースを時間や活動内容によって空間を割り振り、限られたスペースでも工夫して活動出来ている。 法人内の施設や環境資源を利用して、活動している。	活動毎に活動スペースを分けるなどして構造化を図っていく。 適切なスペースを確保して活動出来るよう環境整備を行う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		適切に職員を配置している。	安全面に配慮し、場面に合わせて人員を配置する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	床の段差等はなく、バリアフリーに配慮された建物である。 活動前には使用場所の安全確認を行っている。	利用者の体も大きくなり、排泄支援の場面でトイレの広さが十分ではないが、怪我の原因となり得る物は極力排除し、安心安全な環境作りに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		活動終了後には掃除、消毒作業を行っている。また活動に合わせた道具の提供や場所の移動を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		ログハウスや静養室を活用し、要望があった時には使用できるように環境整備をしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		PDCAサイクルを活用し、業務改善に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		年に一度実施し、業務改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日のミーティングの他、必要時には会議を設け、意見を述べ合っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4	第三者による外部評価は受けていないが、年1回の福祉サービス自己評価、利用者からの評価を元に、業務改善に繋げている。	今年度も福祉サービス自己評価、利用者からの評価を元に、業務改善に繋げる。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		月1回、スキルアップを目的とした内部研修を実施している。外部講師による研修も実施している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	3	支援プログラムをまだ公表はしていないが、月案週案の中で必要なプログラムを作成したり、公共施設に主な支援プログラム内容を記載したポスターを掲示したりしている。	令和6年度中に、支援プログラムをHP上で公表予定。（現在作成中）
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		担当職員、児童発達支援管理責任者が中心となり、利用者のニーズを把握した上で、個別支援計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		個別支援計画作成時には、個別支援計画会議を開催し、利用者の現状やニーズについて共通理解を図り、支援方法を検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		統一した支援を行う事が出来るよう、個別支援計画会議で検討した支援方法を職員間で共有し、実践している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	4	標準化されたツールは使用していないが、行動観察や保護者の聞き取りなどにより、アセスメントを行っている。	今後は標準化されたアセスメントツールの活用を検討し、よりきめ細かなサービス提供に努める。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	3	「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の内容を盛り込んだ個別支援計画書である。	現在、「移行支援」、「地域支援・地域連携」の機会が少ないため、今後の活動、支援内容に取り入れる。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		集団活動や個別活動について常時話し合う機会を設定し、活動プログラムを立案している。	今後も定期的に会議を開催し、職員全体で話し合い、活動プログラムを立案する。

適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		利用者の興味関心、好子を捉えつつ、活動内容や自立課題が固定化しないよう努めている。	利用者や保護者のニーズを踏まえながら、行事の企画や活動内容の改善を行う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		集団活動を通して社会性等を養い、個別活動では自己肯定感を高める事が出来るような活動を設定している。	今後も、個別活動と集団活動を組み合わせたサービス提供、計画の作成を行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		学校休業日等で支援開始前の打ち合わせの時間が十分取れない場合は、申し送りのノート等を活用し、職員間の情報共有に努めている。また、その日の活動のリーダーを決める事で、支援内容や役割分担を明確にし、支援にあたっている。	今後も様々なツールを活用しつつ職員間での情報共有を徹底して行い、支援内容や役割分担に限らず、リスクマネジメントについても情報共有し、安全に過ごす事が出来る環境を整える。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		学校休業日等で支援終了後の打ち合わせの時間が十分取れない場合は、申し送りのノート等を活用し、職員間の情報共有に努めている。	今後も支援についての情報共有を、支援終了後に限らず必要に応じて行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		毎日の記録を、項目毎に細かく記録している。支援方法に改善点、問題点があった場合は、会議を開催し、改善に努めている。	今後も毎日の記録を徹底して行い、必要に応じて支援の検証をし、支援の質の向上に繋げる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的（6か月毎）に実施している。	今後も定期的（6か月毎）にモニタリングと計画の見直しを行い、必要な場合には、6か月に満たなくても会議を開催し、計画の見直しを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		地域交流の機会の提供は不十分だが、お楽しみ会で公共施設を利用する等し、地域との関わりを持つ事が出来るよう配慮している。曜日毎に活動内容を振り分け、創作活動、作業活動、余暇活動、自立に向けた支援を行っている。	4つの基本活動を組み合わせ、それぞれの利用者に必要な支援を行う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		余暇時間には、多くの選択肢を用意し、自己選択、自己決定出来るよう促している。要求や要望を伝えるためのコミュニケーションスキルの習得を目指し、写真やイラストを活用したり、身振りサインを取り入れたコミュニケーションを促している。	放課後等デイサービスだけでなく、家庭や学校でも活用できるよう、情報共有し、般化を目指していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		担当職員、または児童発達支援管理責任者が参加し、情報共有に努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要な場合には、保健師や役場と連携し、より良い支援に努めている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		担任の先生と連絡調整を行い、必要な情報について共有している。学校の連絡ノートを学校、家庭、放課後等デイサービスで共有し、情報共有に努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	就学前に利用していた保育園等と情報共有する機会は無かったが、地域の保健師を通じて、生育歴等の情報収集に努めている。	今後、就学前に利用していた保育園等と情報共有する機会があれば、関係機関と連携し、情報共有と相互理解に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		卒業予定の利用者様に関する情報を速やかに提供出来るよう情報整理している。	障害福祉サービス事業所等へ移行する予定がある利用者に関する情報についてサポートブック等にしてまとめ、スムーズに移行出来るよう支援する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4		地域の児童発達支援センターとの連携は、これまでなかったが、今後支援に関する助言、研修を受ける機会を増やしていきたいと考えている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		これまで交流の機会がなかったが、今後、必要に応じて利用者の在籍学校の放課後児童クラブ等との交流の機会を設けたいと考えている。
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			法人として参加している。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時等に、その日の様子を保護者にお伝えし、保護者からの相談等があれば対応している。 また、連絡ノートを活用し、家庭との情報共有に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	ペアレント・トレーニングは行っていないが、有効なコミュニケーション方法等について、保護者と情報共有し、共通理解を図る事を心がけている。	今後、保護者様の意向を取り入れつつ、ペアレント・トレーニング等に関する研修等の機会を設ける予定。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		文章にて明文化しており、契約時に両者にて読み合わせを行い、確認した上で、各一部ずつ保管している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		保護者様から支援について要望等を伺い、支援に取り入れている。	保護者様の意向が中心となりがちであるため、利用者様本人の意思を汲み取り、計画に反映させていく必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		個別支援計画書を作成後、内容について説明し、保護者様から同意の署名をいただいている。	実際の支援場面を保護者様に見て頂く機会を設けたり、活動の様子を見て頂く機会を設けたりする。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談は行っていないが、相談等があればその都度対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4	現在、保護者同士、きょうだい同士の交流の機会はないが、法人としては「手を繋ぐ育成会」が組織化されている。	保護者の意向も取り入れつつ、交流の機会を考えていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		事業所内に意見箱を設置している。	苦情の申し立てがあれば、その都度迅速に対応、改善する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		SNS等は活用出来ていないが、定期的（月1回）に広報誌の発行を行い、活動の様子を伝えている。	今後も月1回広報誌を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を写真や文章で分かりやすく利用者や保護者に発信する。 今後、SNS等の活用を検討したい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		契約時に個人情報開示書にて外部への情報開示の可、不可の確認をいただいている。各自のケースファイルはスチール棚にて厳重に管理し、外部者の目に映らないように管理、保管している。	今後も個人情報に関するデータは厳重に取り扱う。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		絵カード等の視覚支援を取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図っている。 保護者との会話では専門用語を使わないように心がけている。	今後も絵カード等の視覚支援を中心に取り入れ対応する。 保護者とのやりとりでは、専門用語を使わず分かりやすい伝え方を意識すると共に、直接会って伝える、連絡ノートを活用する、必要に応じて電話で連絡を取る等個別に対応する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	事業所単体では、地域住民を招待するような行事等は実施していないが、地域住民との交流の機会として、お楽しみ会等で公共施設に出かける事もある。	地域住民を招待する法人全体行事の『感謝祭』に参加し、地域交流を図る。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアルを策定しているが、保護者様に対しては周知不足である。 訓練は実施しているが、十分とは言えない。	今後、保護者に緊急時の対応について周知徹底していく。また、訓練日程を年間で計画し、定期的な訓練を実施予定。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	4	医師の指示書はないが、食物アレルギーがある利用者に関しては、保護者より情報提供していただき対応している。基本的に利用時に口にする物は、家庭から持参していただいた食べ物のみをしている。	必要に応じて、保護者の許可、情報をいただき、適切に対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画に沿って、安全確認等を実施している。 定期的に避難訓練を実施している。	必要に応じて、安全管理に関する研修実施を検討したい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		ピピピだよりを通じて、おしらせしている。	取り組みについてより詳細に、定期的におしらせしていく必要がある。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		法人として作成しており、法人全体で情報共有している。	今後も、ヒヤリハット発生時は事業所だけでなく、法人全体で共有する。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		マニュアルに基づき、研修会を実施している。虐待早期発見のための自己評価を定期的に変更している。	研修会他に必要に応じて会議、自己評価を実施し、虐待防止の意識を高める。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		これまで該当事例がなく、身体拘束はないが、身体拘束を行う場合のマニュアルを法人全体で整備している。	今後対応が必要な場合には、利用者、保護者に同意を得た上で、計画書への記載、実施、記録を行う。